

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30~13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL<0762>52-2271 FAX52-2273

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL<0762>22-2525 FAX24-2882

会長：清水 忠 幹事：米沢 真二

情報委員長：吉田富士夫

1989年9月14日 第398号

自己をみつめる

心蓮社住職 長嶋 善雄氏



法句経の中に、「田畑は雑草で損なわれ、人は煩惱に損なわれる」という意味のお言葉があります。しかし、私はそれを、雑草さえも生えないような荒れた土地では、田畑になるはずがないと考えるのです。

人間の心には、貪・瞋・痴といった煩惱のもとがあります。煩惱郎菩提、佛凡一如と言うのもありますが、佛陀と凡人がまったく同じだというわけではありません。この即や如の文字には、微妙な解釈があるのです。

印度の民謡で、汚れた泥土の池なのに、清らかな蓮の花が咲く気高さを歌ったものがあります。また木と火は異質なものですが、昔は木と木の激しい摩擦によって火を生み出したから、火は清浄なものとして、世界のあらゆる宗教で使われております。現在でも伊勢神宮では、この古代からの方法で御神燈がつけられています。自分自身の内面にある煩惱をみつめて、その激しい摩擦から、凡俗の心の眼の鱗が落ちる状態や、欲の泥沼から自覚する、清らかな蓮華の姿が、菩提であります。

印度で言うブッダー、すなわち佛陀とは、悟った人の意味です。お釈迦さまはその悟った人です。お名前はゴータマ・シッタルタですが、悟った人であれば、お釈迦様でなくても佛陀となるわけです。佛凡一如には、そんな意味があると思うのです。

私は、キリスト教を素晴らしい教えとは思いますが、天におられる神様にお祈りをして、わが身の守護をお願いしています。たしかに、天国まで行けば救われるでしょう。しかしこの世では、神にはなれません。現世で佛陀になれるところが、佛教の有難いところです。「蚊帳一つ、内は極楽、外地獄」と言う諺がありますね。たった一枚の、薄い布の存在こそが大切なので、その存在を自覚するなら、煩惱という蚊に責められる地獄からの、解脱が出来るわけです。

人間、誰もが持っているのが煩惱です。自己をみつめることから始めたいものです。

(文責 吉田富士夫)

わが社の紹介

高岡製箔株式会社 高岡 昇

当社は、昭和28年9月に金の地金が統制から解除になった年に資本金200万円で設立されました。当時、金が統制の為思うように材料が入手しにくく、先代は大変苦勞したと聞いておりました。金箔職人だった先代社長の人柄で多くの仲間が自然と集まり、商品が集まり、それを戦後の金箔の品不足の時、宗教関係のお得意様に販売したのが今日の基礎となった訳です。以来、国の重要文化財に必要な金箔、例えば迎賓館、中尊寺の金色堂、伊勢神宮、京都御所等は、当社の製品を使用させて頂きました。

昭和48年当時、田中角栄の日本列島改造論の景気の時当社は飛躍的な発展を見せ、第2次の基礎を作りあげました。その時現在の販売会社と製造会社と仕入れ会社の各部門の会社を設立しました。そして、現在第3次の金箔ブームが到来しその用途は多用化し多くの新製品が完成しそのブームの極めつけはグルメブームに乗り、和食、洋食、菓子、酒、コーヒー、茶等に金箔を入れ、リッチな気分を味わう様になりました。同時に漆器、洋食器等に金箔を使用され、さらに豪華になりました。又、和服や洋服、靴など装飾品にも使用、その材料としての魅力はとどまることを知りません。しかし、ブームは、いつか去り本来の姿に戻る日は必ず来るわけですが、その時の為、現在各会社の内容をより充実し、より良い製品をより安く全世界のユーザーに供給することが我社の使命だと思っております。



【会社概要】 商 号 高岡製箔株式会社
高岡商事株式会社
(有)レアメタル金沢
純金箔の たか岡
仏壇の 仏華堂
本 社 金沢市森山1丁目30-4
資 本 金 4,800万円
3,000万円
設 立 昭和28年9月1日
従 業 員 15名
職 人 250名

ビクターロータリーでの1年間

交換学生 浅田 松次郎

昭和63年4月2日、僕は多少の不安と期待が混在する落ち付かない気持ちのまま家族に見送られ、ニューヨークへ向けて成田空港を発ちました。それから1年間、思っていた以上の物事を経験し、学び得て来れた事を先ずロータリアンの皆様に報告し、感謝したいと思います。

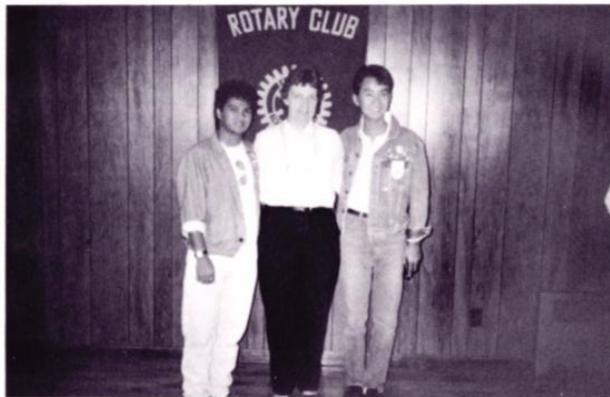
僕が1年間滞在したのは、アメリカのニューヨーク州の西部にあるビクター市でした。今年の全米オープンゴルフが開催されたロチェスター市から車で約30分の所にある小さな町です。僕は4つの家族にそれぞれ約3ヶ月ずつお世話になり、そのために各家庭における生活習慣の細かい違いを知り、またその逆の立場からアメリカ人に共通する物事の考え方、生活習慣というものを見る事ができ、とてもラッキーだったと思います。

アメリカに着いてすぐは緊張の連続でした。そんな緊張の中でも、僕は日本人として悪いイメージを与えないようにという事を無意識のうちに第一前提して行動してきたようで、今考えてみれば

良かったのではないかと思います。生活の中で、学校の友人や先生、ホストファミリーの知り合いの人々などから日本についてよく聞かれ、彼らが日本に対して持つ印象などもそんな会話の中から知る事ができました。時にはホストファミリーのお父さんやお母さんと腰を据えて世の中の物の見方なども話しあう事ができました。もちろん英語は、最初の3ヶ月ぐらいまでは理解するのも大変なぐらいでしたが、特に最初の1ヶ月ぐらいは一番簡単なYes、Noで答えるだけでも相手に自分の意志が間違っていない程でした。しかし一旦言葉の自由がきくようになってからは約半年間、ヨーロッパ、南アメリカ等からの留学生達と接する機会も多くなり、色々な立場からの世の中の見方を聞き、自分の意見を言う事もできるようになりました。

そんな中で僕はアメリカが抱える大きな社会問題の中の2つを目の当たりにする事になりました。最初のホストファミリーのお父さんが町の教会の牧師さんであったためにその教会のメンバーの中でも特に僕と同じ世代の子供達と仲良くする事が多かったのですが、その友達の中の1人がアルコール中毒のリハビリ中だということです。日本の学生の間ではたまに急性アルコール中毒の問題が取沙汰にされますが、それとは全く別の次元の本物のアルコール中毒が僕の年代における社会問題だということです。アメリカではアルコールに対する年齢制限がたいへん厳しく、たとえ親のおつかいであっても21歳以上である事を証明するIDがなければお酒を売ったお店が取り締まられるのです。日本で目にするようなビールの自動販売機などはアメリカではもってのほかといった感じです。他国からの留学生達ともよく話し合った事なのですが、高校生という年代においてアメリカではアルコール中毒がここまで深刻な社会問題になったのは、厳しすぎる規則に反発した結果のものだと思います。日本の学校内でよくいわれる校則違反等はこれの極々小さい範囲内でみられる事態であるのがよかったと思われるぐらい、当事者達にとっては、たいへんな問題のようです。

2つめの問題は、これも僕の世代に見られる事なのですが、麻薬の問題です。日本のマスコミでもよく取り上げられる問題ですが、自分はビクターに約10ヶ月間居てまだそれは都市部に限られた問題だと思っていました。しかし、最後のホストファミリーに入って初めてそれがビクターのような小さな町にも及んでいる社会問題である事を知りました。最後のホストファミリーのお姉さんは



ビクターロータリークラブ例会場にて
(ブラジルからの交換学生と)



第3ホストの家族とナイアガラで

大学の寮に入っていたのですが、同室の女の子が麻薬をやっている、耐えかねるので大学を変えようかという問題がその家庭内にあったのです。しかし、大学を変えるという事はそうたやすい事でもなく、僕がいた間中その家族はその事で悩んでいました。もちろんそこら中にこれらの社会問題がはびこっているわけでもないのですが、いつだったかのロータリーの例会でその手の社会問題のカウンセラーがスピーチをした時に、その最後のホストファミリーのお父さんが手を挙げて真剣にその麻薬に関する悩みを打ちあけているのを見て、僕は他人事では済まされない社会問題の深刻さを肌で感じました。この後、麻薬事情というのが僕が通っていた公立のごく小さな高校にも入り込んでいる事を知りました。

ともあれ、僕は世界各国からの多勢の交換留学生達と知り合い、話し合い、友達になってきました。この事は僕の将来において何物にも変えられない財産であるといえます。全ての機会はロータリーという機関が与えて下さいました。

最後に再び深く感謝します。ロータリアンのみなさん、本当にどうも有難うございました。

